内海ITU事務総局長

ジュネーブ便り

（2006年1月）

◎内海事務総局長から

この7年間を振り返ると、文化や習慣、行動様式の違いに対する戦いであったように思います。日本人であるがゆえに、理解がされない、こちらも相手が理解できないといったことばかりでした。もちろん、複雑な利害調整や経営上の問題点を解決するための能力も問われましたが、そのような問題も、文化などの違いから引き起こされたものが少なくありませんでした。

日本が真ん中に位置している日本の世界地図は、日本人の世界観を大きく誤らせたような気がします。世界の端に位置する日本が、どう世界と対処していくかという視点に立てば、私も、もう少しスムーズにITUの運営ができたような気がします。やっとこのごろになって、こつが分かってきたようです。

◎1月の事務総局長の主な動向

世界情報社会サミット（WSIS）の実施及びフォローアップ

WSISでは、情報社会の社会的、経済的、技術的、文化的、様々な要素が議論の対象となり、そのため、合意されたチュニスアジェンダは128ものパラグラフで構成される重厚な文書となりました。このアジェンダには、ICTのインフラ整備、セキュリティー、多様な文化やコンテンツ、メディアなど11の行動項目が規定され、国際機関、政府や民間だけでなく市民団体など関係者全員が参画するマルチステークホルダーを基本として実施することとされます。また、アジェンダには、国連事務総長、国連経済社会理事会（ECOSOC）、国連機関長会合（UNCEB）、ITU、UNESCO、UNDP等のそれぞれ役割が定められていて、ITUはUNESCO、UNDPと共にチュニスアジェンダの全体の実施管理が指示されています。

世界レベルでのマルチステークホルダーによる活動を取りまとめるのは、これまでにない大役です。現在、UNESCO松浦事務局長と共に、UNESCOと緊密な連携を図り、各関係者をリードしWSISの結果を実現につなげることとしています。

ITU世界電気通信開発会議（WTDC）の準備

3月7日から15日にかけてドーハ（カタール）において、ITU世界電気通信開発会議（WTDC）を開催します。WTDCは、デジタル・ディバイド解消のための途上国支援など今後4年間のITUの開発活動の指針を定める会議です。前回2002年のWTDCでは、主として開発途上国における規制改革、新技術の開発導入、多様な電子サービスの導入や電子戦略、競争政策のため料金やコストなどの経済及び財政、人材開発、最貧国への特別協力など6つの活動テーマを柱にしたイスタンブールアクションプランが採択されました。昨年のWSISで合意されたチュニスアジェンダには、2015年までに世界中のコミュニティーをICTでつなぐことを目標にして11の行動項目が定められ、ITUは情報通信のインフラ整備やセキュリティー、E-政府やE-ビジネス等のICTサービスの導入普及など幾つもの行動項目の実施が求められています。これらWSISの結果項目を、ITUの具体的な開発活動にどのように反映させるかが主要課題となります。

1月15～18日　太平洋電気通信協議会（PTC、ハワイ）

太平洋諸国の政府、民間など電気通信関係者が集い、電気通信に関する様々なテーマについて自由に討論する太平洋電気通信協議会（Pacific Telecommunications Council）の総会が毎年恒例のハワイで開催されました。今回は、主催者からの要請もあり、そのオープニングセレモニーに私のビデオメッセージを送付しました。

モンブラン橋より　撮影：内海善雄